

## 2009 年度秋学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	社会	学科
担当科目	社会学概論		

<秋学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

この授業のチューターとしての業務はプリント配布、コメントカード配布、コメントカードへのコメント返しだった。その中で中心となったのはコメントカードへのコメント返しである。当初は3人で分担していたが、途中からは4人で行った。最初はどのようなコメントを返して良いか分からず、1枚書くのにとっても時間がかかった。回数を重ねると少しずつ慣れていったが、それでも1回の授業の分を終わらせるのには2～3時間かかった。授業の時間内では終わりきらず、「内職」で終わらせて授業に持っていき、という形になった。

このように時間的な負担はあったが、受講生のコメントカードの内容から学ぶことも多かった。この授業を受講しているのは1回生が中心だったが、毎回の課題は社会学において基本的なテーマに基づくものであり、受講生のコメントも多様だった。

残念だったのは「一部の人が授業中に私語をしており、気になって授業に集中できない」というコメントが目立ったこと。チューターとして授業環境の改善にはあまり貢献できなかった。同志社大社会学部に入って3年経つが、「必修 or 出席重視の授業はうるさい」というのはほぼ間違いないと感じる。この授業は必修であり出席重視なので、どうしてもマナーの悪い学生が目立ってしまうな、と感じた。

<今後のチューターまたは先生への提案>

社会学概論のチューターも来期もこのスタイルで行うなら、最低でも4人は必要だと思います。チューターは個人の役割分担をできるだけ明確にすればスムーズに業務が行えると思います。